

学校名： もがみちようりつひがしほうでんしょうがっこう
最上町立東法田小学校
 校長名： 高橋 正彦
 所在地： 山形県最上郡最上町大字東法田 397
 電話番号： 0233-43-2799

I 実践校の概要

1 学校・地域の特色及び実態

本校は、最上町の北部に位置し、町の中心より約5kmの南北3kmに及ぶ集落を学区にもつ。戸数は83戸でほとんどが農業を営んでいる。保護者は、畜産やきのこ・山菜の栽培とともに、会社や町工場で働く兼業農家が大部分である。地域住民は教育に対して非常に熱心で、「子どもは地域の宝」という意識であたたかく見守り育ててくれている。

平成14年度より「みつわ幼稚園」が校舎南側に隣接するようになり、幼小連携のもとで広い視野に立った教育活動の改善充実に努めてきた。平成18年度より「自ら鍛え いのち輝く子どもの育成」を研究主題として、たくましい体と心を創る体育活動の研究に取り組み、平成20年度には町委嘱公開研究会を行っている。

本校の児童は、素直で明るく真面目で、体を動かすことが好きである。しかし、積極性や粘り強さ、精神的なたくましさ等に欠ける面が見られる。そのため、子どもの生活習慣を見直しながら、教育活動全体を通して体育活動に力を注ぎ、たくましい心と体の育成をめざしている。このような中で、体力が気力につながり、挑戦する心も少しずつ育ちつつあることを実感している。

2 学校の概要（平成22年5月1日現在）

	1年	2年	3年	4年	
学級数	1		0	1	
児童数	男	2	3	0	1
	女	0	1	0	1
	計	2	4	0	2

	5年	6年	特別支援学級	計	
学級数	1		1	4	
児童数	男	1	1	1	9
	女	2	1	0	5
	計	3	2	1	14

教員数 8名

体育の授業の状況

実施領域	実施学年	児童生徒数			外部指導者数
		男	女	計	
器械運動	4～6年	4	4	8	1
スキー	1～6年	9	5	14	2

II 活用事例及び今後の展望等

【本事業の成果の要点】

年間指導計画に基づく領域の指導時期に合わせて、教育事務所より指導協力者を派遣していただいた。町のスキー大会や校内スキー大会を直後に控えている子どもたちにとっては、たいへん貴重な機会となった。会場も、平日頃慣れ親しんでいる本校のグラウンドであったため、外部指導者の指導を経た自分の技能の伸びを実感することができた。

優れた専門技術を身に付けた指導者に、実際に模範滑走を披露してもらったことで、児童のみならず教師にとっても良質で鮮明なイメージを抱く好機となった。

児童は、一つでも多くの知識や技能を吸収しようと、指導者の話に真剣に耳を傾けるとともに、とても真剣な眼差しを向けていた。

1 研究テーマ等

(1) 研究テーマ

地域スポーツ人材との連携による合同体育の在り方

～スキー学習を通して～

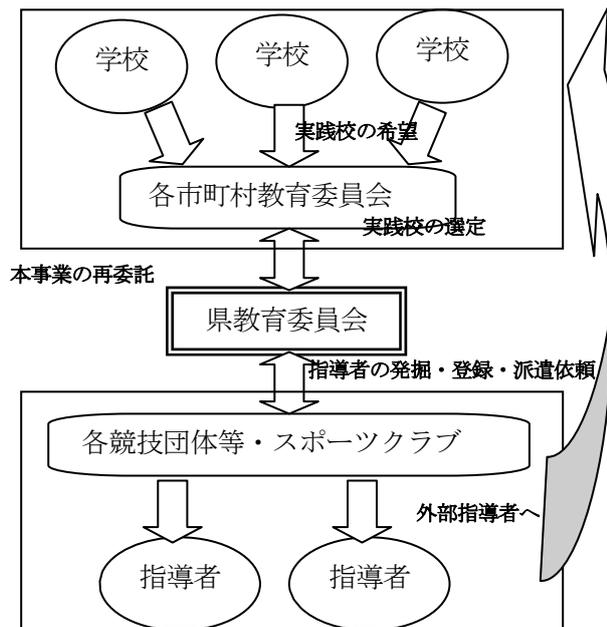
(2) 研究テーマ設定のねらい

小学校においては、通常は学級担任が中心となって体育指導が行われているため、必ず

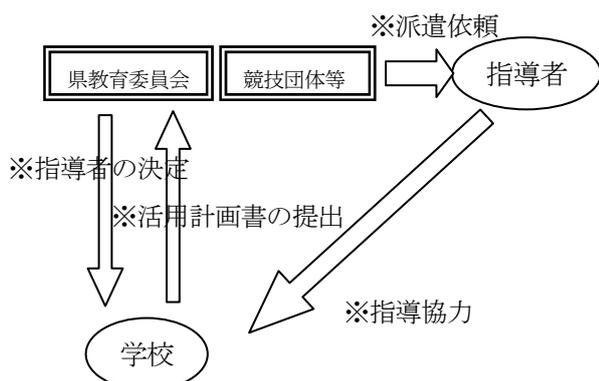
しも専門性の高い指導が保障されているわけではない。中には、体育指導に苦手意識をもつ教員が指導にあたっている場合も少なくないため、児童に運動やスポーツの楽しさや喜びを十分に体感させることが困難になりがちである。そこで、本事業を通して地域におけるスポーツ人材を有効に活用することが強く求められる。児童にとっては、高い専門性を有する外部指導者に指導を受けることで、運動の本質に触れた楽しさや喜びを実感する絶好の機会となるはずである。さらに、指導者の立場からも、運動特性を理解し、高い技能を感じ取る貴重な機会であり、自己の指導力の向上につなげていく好機として捉えられる。

(3) 取組体制

<外部指導者の選定>



<外部指導者の派遣>



(4) 本事業における主な取組

平成 二 十 二 年 度	□4月7日 県担当者会議	・本事業のねらい及び概要等に関する確認。
	□5月上旬 市町村主管課長等会議	・事業内容に関する説明と周知。
	□6月下旬 事業実施に係る通知(募集)	・各市町村教育委員会及び学校への周知。
	□7月～ 事業展開	・ニーズに応じた指導者の選定及び派遣。 ・外部指導者による指導協力。(水泳・陸上)
	□9月上旬 追加募集	・冬期間における実施希望の取りまとめ。
	□1月～ 事業展開	・ニーズに応じた指導者の選定及び派遣。 ・外部指導者による指導協力。(スキー)
	□2月上旬 事業総括	・事業の振り返りと報告書の作成。
	□2月18日 県推進委員会	・事業のまとめと次年度へ向けた確認。

2 活動及び活用事例

(1) クロスカントリースキー I

① 目的

町のスキー大会や校内スキー大会を間近に控えた児童が、大学生である地元出身の現役競技者から、専門的な技術指導やワキシングについて指導を受けることで、技能の向上とともに、大会参加への意欲を高める。

また、優れた専門技術を身に付けた一流のスキー走法を実際に見学することで、技能のイメージ化を図るとともに、スキー競技に対する憧れと愛着をはぐくむ。



② 具体的な指導方法

ア 指導形態

1年生から6年生まで、全校児童14名による「合同体育」の形態で実施。

イ 指導場所

日頃から、慣れ親しんでいる本校グラウンドにおけるスキー練習コース。

ウ 技術指導

児童が、スキー大会における個人競技で必要なクラシカル走法(ダイアゴナル走法)について、児童の発達段階に応じた基本的な技術を踏まえながら、競技力向上へ向けた実技指導が展開された。

ダブルポールによる推進滑走では、いかに自分の体重をポールに預け、効率の良い推進力を生むかについて、児童が体験を通して実感することができた。特に、上半身の動きやポールの着地場所等に関する実技練習が繰り返された。

ダイアゴナル走法については、腕と足の動きのバランスやタイミングを中心に実技指導が展開された。また、スムーズな腕の振りとりズムに連動するポールのグリップに関するポイントについても、丁寧な指導が展開された。

これまでの児童は、常時グリップに力が入った状態であったが、腕を振り切った後は、グリップを開放することや、その際の指の使い方のコツ等について、児童は新たな技術を獲得することができた。



両足を交換するタイミングについても、つま先のビンディングの位置を目安にすることや、膝の柔軟性を活かした動きを意識すること等、具体的でわかりやすい指導が展開された。

エ 模範滑走

児童への実技指導と並行して、指導者の模範滑走も繰り返し行われ、具体的なイメージを確認することができた。

指導を受けた一つ一つの技術ポイントを確認するとともに、その躍動感やスピード感を間近に感じ取り、スキー競技の魅力を改めて認識する機会となった。

オ ワキシング指導

実技指導終了後には、スキー滑走面の日常的な手入れや、滑走性を高めるためのワキシングのポイント等に関する指導も行われた。併せて、雪質やコース状況に応じたグリップワックスの選定についても、競技者としての専門性に基づくアドバイスをいただいた。



③ 成果・課題

スキー大会を目前にしている児童にとって、大きな刺激となる指導となった。常に学習や練習を行っている場所で、専門性の高い指導者が展開されたことで、児童は今までの自分の滑りと比較しながら、技術の伸びを実感することができた。

指導者が、地元出身者で現在も大学スキー部で競技を続けている現役選手であったこと

も、児童の憧れを誘った。

実際に基本的な走法を見せていただいたことも、児童にとって大変貴重な機会となったが、指導に当たっても、児童の目線に立って非常に細やかでわかりやすく具体的な説明をいただいた。日頃、教員の指導を受けているときの児童の表情とは全く違い、真剣な表情で耳を傾け、一つでも多くのことを吸収しようとする眼差しがあった。

(2) クロスカントリースキーⅡ

① 目的

地元在住の元スキー競技者を、指導者として学校に招くことで、児童のスキー技術と体力向上へ向けた練習方法を共有するとともにスキー競技に対する親しみを高め、生涯に渡りスキーに対する愛着をもち、親しんでいく態度をはぐくむ。

② 具体的な指導方法

ア 指導形態

全校児童を、上学年（4年生～6年生）と下学年（1年生～3年生）に分け、発達段階に応じた指導が展開できるようにして実施。

イ 指導場所

日頃から、慣れ親しんでいる本校グラウンドにおけるスキー練習コース。

ウ 技術指導

クラシカル走法の基本技術を再確認するとともに、コース状況に応じた走法について指導が展開された。

コースにおける小さな起伏を、滑走スピードを落とさずに通過するコツや、体力の消耗具合に応じた滑走方法の選択等、大会コースを熟知する指導者から、実践的な助言をいただいた。

③ 成果・課題

児童にとって馴染みの深い「地域の先生」から、質の高い指導を受けることができた。

個々の児童が、尊敬する「先生」の指導を通して自分の滑りを確認することができた。また、来るべきスキー大会へ向けて、自信と勇気をもつことができた。

3 今後の展望

外部指導者を学校に招へいすることは、児童にとって質の高い指導を受ける絶好の機会となる。児童のみならず、教員にとっても貴重な研修機会となることを実感している。さらには、地域と学校の連携を深め、地域のスポーツ振興にも大きく寄与することになると考えられる。